

【分野名：学際、複合、新領域】

大 学 名	北海道大学
拠点のプログラム名称	スラブ・ユーラシア学の構築
中核となる専攻等名	スラブ研究センター
拠点リーダー氏名	家田修

〈 拠点形成の概要 〉

目 的

本拠点形成プログラムでは、

- 地域研究を地域内部に向かう方向ではなく、開放性や相関関係の方向で刷新し、
- スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連東欧社会主義圏）、ひいてはユーラシア全体に関する新たな認識の枠組みを提示することが目指される。

研究上の独自性

本研究プログラムにおける新たな分析概念は「中域圏」である。つまり、

- スラブ・ユーラシア内の各地域は地球化（グローバル化）の中で隣接外部世界から引っ張られ（遠心力）、

■極東・シベリア、中央ユーラシア、東欧などの「中域圏」が生まれつつある。

- 今日のスラブ・ユーラシアは旧社会主義圏としての求心力と外部世界からの遠心力がせめぎあう、「中域圏」のゆるやかな束として独自のまとまりを保っていると理解することができる。



教育上の独自性

本プログラムは若手研究者養成という教育面で、

- 学内、国内外の大学院生、ポスドク研究者を対象とした新規の事業や従来の制度を発展させた事業を行い、
- 部局や大学の枠を超えた高度な次世代研究者養成拠点の形成を目指す。

本プログラムでは以上の施策を通して、世界に先駆けてスラブ・ユーラシア学という新領域の学問形成を目指すことが目標である。